

Minamigoka HikersNEWS

平成20年7月号 No.161号

森田代表の言葉

新年度がスタートし各種大会も真っ盛りなこの時期ですが、4月より雨がが多く試合や練習の予定も狂ってしまい、私もそうですが、皆様におかれましても対応に追われて大変なことと思います。

またこの時期、各役員さんも入れ替わったばかりで、初めてな事も多く大変な思いをしているとは思いますが、なんとか乗り切って頂ける様よろしくお願い致します。

さらに今期は『南ヶ丘キッカーズ創立30周年』を迎えることとなりました。

記念誌・記念品そして12月には記念行事を計画しております。皆様で盛りたて是非、今期をいい1年間にして頂きたいと思っておりますので、こちらもよろしくお願い致します。

さて、各種大会真っ盛りということもあって中学校の県大会も今まさに真最中です。

私の息子(次男坊)も現在南が丘中学校3年生で、チームメイトには南ヶ丘キッカーズ出身の選手が5人います。

1年生もいますのでみんながレギュラーとはいきませんが、部員約60名弱がチーム一丸となって神奈川県約400チーム中のベスト8まで来ていて、ここまで11試合現在快進撃中です。

是非、神奈川県サッカー協会のホームページで見て頂きたいと思っております。

県大会トーナメント(ベスト32)には横浜市から11チームで、南が丘中学校がそこまでたどり着いたのは7年ぶり、余談ですが高校によっては内申の加点になる所も有り、ある公立高校ではなんと加点5と意外と大きい、ベスト4では加点7とあと1歩のところでした。

そんなことはさておき、息子のチームはもともと決して強いチームではありませんし、勝つためのチーム造りをしてきた訳でもありません、どちらかという育成を重視して来たチームです。

そんなチームがここまで来れたことで最も大切なことは、選手・指導者(先生)・父兄が一体となっているということです。いい指導者に恵まれたこともあり、私はもちろん中学校なので父兄の一人としてほんのお手伝い程度なのですが、この3者の関係があって初めていいチーム造りができるのだと信じております。

お互いを信頼すること、信頼できないのなら信頼するよう努力し理解し協力すること、話し合いは大切に不満が有るのなら話し合いをする、批判してばかりではそれはできません。

私はこの1年間そんな信念の下、代表として判断を下し務めてまいりました。

皆様におかれましてもそんなチーム造りを目指して頂きたいと思っております。

これからの1年間よろしくお願い致します。

森田健治

比護副代表の言葉

平成20年度がスタートして早くも二ヶ月が過ぎました。

日頃よりコーチ・役員・御父兄の皆様には多くの御協力をいただき感謝しております。

今年は創立30周年という事でさらなる御協力をお願いする事もあると思っておりますが、何卒よろしくお願ひいたします。

また、副代表に就任してから一年が過ぎましたが、至らなかつた点も多く、皆様には御迷惑をおかけしてばかりで申し訳ありませんでした。

今年度もキッカーズの子供達の心と体を最優先に考え、さらに子供達とチームの将来も視野に入れ、より良いチーム作りをしていきたいと思っておりますのでよろしくお願ひいたします。

比護信雄

事務局長の岡安さんより

皆様には、日ごろより大変お世話になり誠にありがとうございます。

すべてが手探りのこの2ヶ月、不慣れな故に皆様にはご迷惑をおかけしております。

いつも暖かいご理解とご協力をいただいておりますこと、心よりお礼申し上げます。

現在5年生の息子が1年生の7月に南ヶ丘キッカーズに入部して以来、4年間お世話になってまいりました。

眠い目をこすりながらリュックをしょって、下小の朝練に時間をかけて親子で歩いたSLの頃を懐かしく思います。

暖かいコーチの皆様のご指導と、たくさんの仲間たちとの支え合いの中、サッカーを通じて様々な経験をしながら親子共に育てていただいております。

私にとって、息子の子育ては南ヶ丘キッカーズと共にあるといっても過言ではありません。

これまで、同じ学年の皆様はもちろんのこと、学年を超えてたくさんの方々にお世話になってまいりました。

そのせめてものご恩返しをさせていただきたく、今年度事務局長をお引き受けした次第です。

30周年という大きな節目の年に、はなはだ微力ではございますが、今年度役員全員で力を合わせ、大変な中に楽しさをもちながら皆で元気にこの1年を走りきりたいとの思いです。

一年間、どうぞよろしく願いいたします。

平成20年度局長 岡安直美

事務局次長の津久井さんより

事務局次長としての任期がスタートし、2ヶ月が過ぎました。

のらりくらりと過ごしてきた自分にこのような大役が務まるのか？

それもチーム30周年という節目の年に…それはもう不安でしたが、皆様のおかげでここまで来ることができました。

息子が入部したのは5年前、楽しく安全に練習や試合ができていたのは、たくさんの方々の見えないご尽力もあった事を知り、知らないことだらけの自分に愕然とすると共に、あらためて感謝の気持ちでいっぱいです。

少しでもご恩返しができる様、微力ながらがんばりたいと思います。

どうぞご指導、ご協力よろしく願います。

平成20年度次長 津久井 栄子

平成20年度重点課題 より良い指導を目指して

- 1、キッカーズの目指す姿(ビジョン)の共有
 - ・どんな選手を育てるのか？・チームとして
 - ・どんな試合ができれば良いのか？
 - ・各学年ごとに「あるべき姿」を確認し、コーチ・父母の間で共有する。
- 2、技術指導の向上
 - ・「いつ、何を指導するのか？」コーチ間の共通認識を持つ。
 - ・「どうやって指導するのか？」各コーチの知識と経験を集約する。
- 3、話し合い・学び合いの場の設定
 - ・コーチ同士の話し合い・コーチと父母の話し合い
 - ・コーチの研修会の開催

卒団式（平成20年3月9日）

送辞

南ヶ丘キッカーズ 5年 岡本大知

六年生のみなさん、ご卒団おめでとうございます。

今までぼくたちにも、サッカーをおしえてくれたり、一緒に遊んでくれたり、たくさんの思い出をありがとうございました。

これから、中学生になっても、いろいろなことにチャレンジして、がんばってください。ぼくたちもがんばります。

そして時々、キッカーズに来てください。また一緒にサッカーをしましょう。

答辞

南ヶ丘キッカーズ卒団生代表 東正吾

今日、ぼくたち6年生は卒団の日を迎えることが出来ました。

南ヶ丘キッカーズに入団したての頃は、冬の朝連の寒さや夏の練習のきびしい暑さに負けそうになったこともありました。

しかし、今ではいい思い出として心に残っています。

南ヶ丘キッカーズに入団することで、サッカーを通じたたくさんの経験をすることが出来ました。

監督・コーチのみなさん、ながい間、お世話になりました。監督・コーチから教わったことは、卒団するみんなの心にいつまでも残っています。本当にありがとうございました。

お父さん、お母さんがた、お当番や試合の時応援をしていただきありがとうございました。

5年生、次は僕たちの代わりに「南ヶ丘キッカーズ」をひっぱってってください。僕たちは中学校に行っても頑張ります。

皆さんもキッカーズの一員としてこれからも楽しくサッカーを続けてってください。



皆勤賞

6年 井上嵩斗・吉田貴二

4年 石川昌弥・安田達也・高藤聖護・古田将貴

2年 平澤佳也

5年 荒井大輔・小松太一・喜入将・平澤尚也

3年 該当者なし

1年 江川駿介

精勤賞

6年 佐藤港・内野雄太・杉田裕喜

4年 相馬弘太郎・北方智也・青木智哉

2年 川中優也

幼稚園 平澤幸也

5年 該当者なし

3年 該当者なし

1年 該当者なし

努力賞

6年 伊原圭吾

4年 野口聖太

2年 高久拳

5年 後藤弘樹

3年 長谷川嶺

1年 今泉仁

がんばれ岡田ジャパン！

2010年ワールドカップに向け、岡田ジャパンがスタートしました。岡田さんとは、11年来のお付き合いになります。なんで私が岡ちゃん？？？と不思議に思う方もいらっしゃると思いますので、手前味噌ではありますが、昔話をご紹介します。

11年前の冬、港南台プールに家族と行った時に、やはりご家族連れでお出でになっていた岡田さん(以下岡ちゃん)に話しかけたのがきっかけです。ワールドカップ・フランス大会の予選前でした。当時は加茂代表監督のコーチだったこともあり、彼がまだ有名人になる前のことです。立ち話で30分ほど話したただけだったのですが、少年サッカーのあり方やサッカー協会のありかた・・・と、すっかり意気投合。

彼は日本のトップチームを強くすることによって、そして、私は草の根から底辺を広げることによって、アプローチは全く異なるのですが、二人とも「サッカーを日本の文化として定着させたい。」という熱い思いで一致したのです。

当時はメールがありませんでしたので、その後の交流は手紙や年賀状。

そして、メールが使えるようになってからはメール交信でした。

代表や J リーグ監督時代の大変お忙しい時でも、毎年自筆の年賀状を頂き、メールには折り返しご返事を頂いたことは私が恐縮するほどでした。

6年前、私がドイツに赴任する前日には、超多忙の中、新横浜でお会い頂きました。

そして、一年前に帰国し、正月明けに「久しぶりに会おうよ！」と呼びかけたのですが、二人とも海外出張でスケジュールが合わず、結局何度かのやり取りの末、去年の3月末、港南台でお昼ご飯を一緒にすることが出来ました。

そのあと、自宅に送って頂く途中で吉原小学校の SL 練習試合に立ち寄って頂いたのです。

面白かったのは、子ども達の反応でした。カメラ撮影に忙しいご父兄とは裏腹に、「この人誰か、知ってるー？」という私の質問に、子ども達が声をそろえて「しらなーい！」という返事だったこと。

岡ちゃんも「そうだよなあ、分かんないよなあ。」と苦笑いでした。

そして、この度の代表監督に就任です。オシム監督のあとを引き継いだ岡ちゃん自身の人間としての成長振りとして、そして結果にこだわる岡田ジャパンの飛躍に期待する私・・・岡ちゃんです。

一緒に写真を撮った二年生の子ども達がキッカーズを卒業するころには、この写真が貴重な宝物になっているといいなあー。